

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2018年度 第1回

2018年7月29日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価では、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の関係者を委員に選び、「学校が実施した2017年度の自己評価結果の報告」と「2018年度の取り組み」に対する評価を依頼する。委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2018年度 第1回学校関係者評価委員会の実施

2017年度の「自己評価報告書」を作成し、委員会を開き、評価項目毎に結果を報告した後、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。続いて、2018年度の重点目標と取り組み状況について報告した。

- ・開催日時：2018年7月29日（土）午後1時～2時30分
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 402 教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【委員】

- ・渡部俊一：OB・理工専校友会会長
- ・米田尚美：保護者・放送映像学科1年
- ・湯浅孝雄：地域住民・慶応仲通り商店会・会長
- ・中村孝之：団体等・日本建築衛生管理教育センター（欠席）
- ・羽場宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・加藤康晴：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側】

- ・千葉康文：理事長
- ・吉見淳一：専務理事
- ・渡邊敏章：校長
- ・天野誠一：法人本部長
- ・松井敏宏：事務局長
- ・菅野敬祐：校長補佐
- ・水落清治：校長補佐
- ・小川貴之：建築系学科長
- ・加瀬俊広：放送映像学科長
- ・角田浩二：電気電子学科長（欠席）
- ・沢田雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長
- ・久保真樹：総務室次長

（敬称略・順不同）

4. 委員からの意見・提案（評価点：4点満点）

[1] 2017年度の取り組みに関する意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像等（3.7）

- ・読売理工医療福祉専門学校は工業・医療・福祉の異なった分野があり、各専門分野の特性は明確になっている。各分野の知識・技術を理解、習得する専門力が求められていることは学生自身が感じているところであろう。社会に出るまでの短い教育時間でいかに人材を育て上げられるかは、教育する側、学ぶ側の信頼関係の構築が必要である。2017年度就職希望者、卒業率共にポイントは前年を上回る結果となっているが、中途退学者が2桁前後であることも事実であり、フォロー体制にさらに力を入れていただきたい。また、インターンシップでの内容を学校側で理解して学生を送り出しているのか疑問に思うところである。一度の経験で不適合だと悩む学生たちのメンタル面のフォローアップをお願いしたい。
- ・学生のインターンシップの充実に賛成する。成果の授業の単位として認められることを期待する。
- ・読売式教育メソッドは明確で分かりやすい。更なる定着が望ましい。
- ・学校の教職員が一人ひとりすべて真剣に取り組んでいるのが分かる。外国人の入学に関して課題が多すぎて大変だと思う。国によって言葉、生活習慣、考え方の違いによってまとめる事が至難である。
- ・専門分野のプロフェッショナルへの目標を明確にする。入社2～3年で心療内科的病を発生するケースが見られる。就職先での人間関係で悩んだりせず何事も目標達成のプロセスであることを自覚し、教育的指導を素直に受け入れ、自分を環境に順応させる事を常に意識し業務に取り組める人間像で育成する。
- ・就職後、業務への取り組みはまあまあですか、組織の環境、人間関係、特に上司からの強い口調での指導などに落ち込み引きずる事がある。若さは失敗の連続、失敗を恐れず自分のものにして、前向きにアクティブに解釈できる人間像の教育が必要と思われる。
- ・読売理工医療福祉専門学校の設置する工業系（情報、建築）、医療（臨床工学）、福祉（介護）の分野においては、少子高齢化社会の影響を既に大きく受けて、かつて経験のないほどの人手不足に悩まされており、今後もさらなる抜本的国家的な必要が要請されるものと思われる。その意味からも、これらの分野に興味を持って入校してくる若い人を一人でも多く、実社会へ送り出そうとする本校の役割は極めて重要なことと思われる。もちろん今までも種々な面から本校は努力されていることは理解できるが、10%を超える除籍・退学率が示すように、十分とは言えないレベルにとどまっているように思われる。今後も学生の立場に立ったきめ細かい配慮のもとで人材を育成されることをお願いしたい。
- ・教育目的や育成人材像は明確であり分かりやすい。

(2) 学校運営（3.9）

- ・運営に関しては周知しておらず評価するのは難しい。透明性を高めるのであれば、この件に関して保護者に周知する必要がある。移転準備で大変だろうが、現学生たちを第一に考えてほしい。
- ・移転後には現状の教室環境の問題点が解決されることを期待する。
- ・災害時の緊急対策マニュアル等の整備が必要である。
- ・今後、各学科に共通する課題として増加しつつある留学生の日本語教育の効果的教育プログラム作成が急がれる。特に、介護福祉学科は留学生の募集 PR を活発に展開し日本語教育を通じ日本の文化、マナー等に馴染み、専門知識を身につける教育が必要と思われる。

- ・放送映像学科は順調に推移している。新校舎の移転は学校運営にも大きなメリットがある。新校舎移転時には夜間のスタジオ貸し出しを検討したほうが良い。但し、その場合スタジオメンテキーパーが貸し出し時には必要となる。

(3) 教育活動 (3.7)

- ・各分野、学科で教育活動の差が生じていると感じる。教育する側の問題も多く課題の内容も深刻だと思ふ。改善を図らないと学生たちに支障が出るのではないかと心配である。学び直し人材の受入れに関して詳細を知りたい。学び直しの教育内容によっては教育活動の評価の一因としたい。
- ・教員の専門知識とインストラクションの技術向上のための研修機会を設けたほうが良い。
- ・非常勤講師にも授業評価のフィードバックがあるとよい。
- ・最近、ドキュメンタリ番組などでドローン撮影が多用され始めている。新校舎への移転の際には、スタジオは4m近い天井高があり廉価な小型ドローン撮影授業を新しく取り入れたらどうか。
- ・それぞれの学科毎に目的とする専門性が明確であり、教育活動に活かすことができている。

(4) 教育成果 (3.4)

- ・各学科での教育成果の差が生じている。2年制では資格取得は難しく、3年制は高い結果であると思われる。2年間で専門的な学びを受けているので2年制でも資格取得率が上がる指導が必要である。
- ・臨床工学系学科では、就職にも関わる第2種ME実力検定試験の合格率向上に注力が必要である。
- ・就職率が良くこのまま維持することを望む。
- ・放送映像学科に関しては入学応募者数、就職率からも成果を上げていることが分かる。
- ・介護福祉士の国家試験合格率を100%にするべき。外国人留学生が多いため日本語の修得の問題があると思うが努力項目である。

(5) 学生支援 (3.7)

- ・各学科、各個人の対応や取り組みは評価できるが、教育する側の手が回らない、時間がないで学生対応できないのは問題である。
- ・学生も変われば、支援内容も変わると思う。学校全体の課題として検討していく必要がある。教育する側のゆとりも必要である。
- ・担任、教員、就職担当、キャリアカウンセラー、事務職員等が良く学生の面倒を見ている。
- ・金銭的支援もあるが、留学生を含め、心療内科的カウンセリング支援の強化が必要。
- ・学生カウンセラーがいて、留学生の学習や日本の生活習慣への不安などに対応ができている。他の学校にはあまり見かけない支援なのでとても良い。

(6) 教育環境 (3.0)

- ・今の教育環境下では教育が難しいところあるが移転したらゆとりもできると思う。しかし、現状で狭いから、古いから、教室が不足しているなどでは、今、通学している学生たちに対して失礼である。いろいろ工夫して学生達第一に考えて頂き、学生生活をより良いものにしてほしい。
- ・臨床工学系学科について校舎の移転時には、医療用のガス配管や電気設備が整備されているとよい。

- ・施設設備の老朽化を言われるが、学生には現状の設備で教育をするために教員が最新の内容の講習を受けて知識を補って欲しい。
- ・教育陣は充実しているが、若手（30代）の教員も今後必要と思う。新校舎への移転には大いに期待している。
- ・建物の老朽化はあるが移転するまでの期間、学生の安全面への配慮をお願いしたい。

(7) 学生の受け入れ募集 (3.6)

- ・校舎等教育環境の点から、受入にやや問題があると思う。校舎が狭く古い点は今後改善すると思う。留学生受け入れ増加も時代の流れと理解はできるが、受け入れることだけが先立っているようでフォロー体制が遅れている。留学生だけでなく、留学生と一緒に学ぶ日本人の学生たちのフォローも必要。
- ・オープンキャンパスに工夫や努力を感じる。ホームページもみやすく必要な情報は得られるが、各学科のブログを頻繁に更新すると更に良い。
- ・近年は良いと感じているが、2018年問題やオリンピック以降の対策を考える必要がある。
- ・留学生の募集PRの展開、受け入れについては、全学科共通に一貫した日本語カリキュラムの構築がポイントと思われる。
- ・社会的に人材が不足している介護福祉、臨床工学の募集方法、受け入れ環境等を検討する必要があると思う。放送映像学科に関しては順調に推移している。
- ・留学生の募集について、社会貢献という意義からも、公益社団法人本郷法人会への入会をお奨めする。留学生の募集が積極的かつ効率的に進められ、人脈作りにも役立つことと考えられる。

(8) 財務 (3.9)

- ・入学者が増加傾向であるので収益も見込まれていて評価する。
- ・移転に伴い、今後の課題として良い方向へ取り組んでほしい。
- ・安定した入学者数の確保と支出の抑制により健全な学校運営と思われる。

(9) 法令等の遵守 (3.9)

- ・各課題内容をみると、教育側、教職員の労働問題が見て取れる。法に則り改善して頂けることを望みます。
- ・個人情報保護は常勤の教職員だけではなく非常勤講師にもマニュアルの理解と遵守を求めたほうが良い。
- ・コンプライアンスの教育、報連相（報告、連絡、相談）の徹底が必要。

(10) 社会貢献・地域貢献 (3.4)

- ・各学科としてできる貢献ではなく学校全体としての取り組みが必要。
- ・地域商店会と良好な連携が維持されている。
- ・移転後も地元商店会との連携がとれると良い。
- ・地域社会、テレビ局等との連携がうまくとれている。

[2]2017年度の改善点に関する意見

- ・学内での教育は成果あるものと評価できる。しかし、企業に出たときの教育については課題がある。
- ・インターンシップ実施に伴い、企業側との連携は今後も必要である。
- ・校舎移転は、現学生に影響がでないよう進めてほしい。

- 社会人基礎力講座の内容は充実しており、ビジネス検定3級の合格と目標も明確になっている。手厚くサポートしていることが伺える。
- 教員の指導力向上のための講習会参加やスクールカウンセラーによる研修の実施など、教育の質保証のための組織的な取り組みがなされている。
- 2020年4月の移転に向け着実な準備が進んでいることが分かる進捗状況の明示があると良い。
- 留学生への対応が充実して来ている。
- 社会人としてのマナーの取り組みは大変良い。
- 2020年移転するに当たり、学校運営、教育活動と横並びに問題なく進めていただきたい。
- 在籍者は増加しているが除籍・退学率は前年度と変わりなく取り組みの成果が出ている。
- 学科長が変わった学科多いように感じる。今までの良い部分の踏襲と新しい事を期待する。
- 留学生への配慮だけでなく日本人も問題を抱えた学生もいると思う。日本人への配慮や指導もきちんと欲しい。

[3]2018年度に関する意見

- 2017年度とは違った環境があると思う。柔軟に対応し学生第一に活動運営が進むよう望む。
- 臨床工学系学科の就職率が低下しているが養成校の増加による供給過剰の状況が首都圏は、続いている。
- 現状の就職対策に加えて卒業生とのネットワークを強化して活用していくことが重要と思われる。
- 2018年問題やオリンピック後の対策を学校として明確なビジョンを考えて欲しい。
- 入学した学生が成長し卒業できる取り組みをしてほしい。また、専門職のための学校なので高い専門性を身につけるカリキュラムやインターンシップへの取り組みを行ってほしい。

5. 2018年度の重点目標

• 学生教育の充実

留学生の教育については過去2年間重点目標に置き、学校内の指導環境は大きく整備前進され、日本語能力向上・生活指導の体制は一通りの成果を見せることが出来た。

留学生の在籍数は増加してきており、進級・卒業生数も増加することから卒業後の進路決定に対しての充実を図りたい、進路として留学生の多くは日本国内での就職を希望しており、留学生に対する就職指導の方法を確立することを重点の目標にする。その達成には、就職に向けたマナーをはじめとした就職力の向上と共に企業の開拓に力を入れ、入学から卒業までの留学生の指導を確立する。さらに各学科においても、留学生の入学から卒業までのスタンダードを完成させる

• 教育の質保証関連

昨年度の各学科の自己点検評価に於いては、次の3つの項目について適切とする学科が少なく、職業実践課程の「最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されており、当該専門課程において、企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修の機会を作る」という観点からも、重点項目とし今年度より適切なものにした。

- 1) 各学科の関連分野における実践的な職業教育の産学連携によるインターンシップ、実技・実習等のさらなる充実
- 2) 各学科の関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上
- 3) 卒業後のキャリア形成への効果を把握と支援

- ・移転準備作業の着実な推進

2020年4月の文京区への移転が決まり、新校舎での学校運営が滞りなく開始出来るよう、教室・実習室等設備等は勿論のこと、関連公官庁への届出変更、学生募集等に関する準備作業についても着実に推進する。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、「2018年度の間評価に対する意見・提案」と合わせ、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上